

福山市身体障害者団体連合会
特定非営利活動法人

第16号

福山市身連通信

2015 (H. 27) 年 1 月

発行者 NPO法人 福山市身体障害者団体連合会
編集者 福山市身連 広報部市身連通信編集委員会
連絡先 電話 FAX 084-961-4733

目 次

年頭のご挨拶 前川理事長	各協会
市身連 ボウリング大会開催	
中四国身障相談員研修会報告	
広島県身障相談員研修会報告	
市身連 市へ要望書提出	
市身連 十一月連絡会開催	
アマチュア音楽フェス 音&音	
ホームページ経過	
他 賛助会員案内	

年頭のご挨拶

特定非営利活動法人

福山市身体障害者団体連合会

理事長 前川 昭夫

新年あけましておめでとうございます。特定非営利活動法人 福山市身体障害者団体連合会としても、一〇〇周年に向かって、市内の一団体として何らかの提案をし、その役割を果たせたらといろいろ模索していきたいと思います。

また、行政のご理解と市民の皆様のご支援を賜り、身体障害者団体連合会として何らかの事業が立ち上げられることを目指に掲げ、役員会員一丸となつて頑張ります。

駅家町身体障害者福祉協会 会長 石黒 義美
芦田町身体障害者福祉協会 会長 甲斐 賛
加茂町身体障害者福祉協会 会長 鎌刈 拓也

福山車イス福祉協会 会長 菅原 晃
福山市難聴者・中途失聴者協会 会長 井上 佐智子
新市町身体障害者福祉協会 会長 三島 茂

神辺町身体障害者福祉協会 会長 三島 茂
田上 敬二

事務局・会計 藤井 貞
藤井 武儀
重藤 弘明
白石 憲式
会長 田上 敬二

新年あけましておめでとうございます。特定非営利活動法人 福山市身体障害者団体連合会としても、一〇〇周年に向かって、市内の一団体として何らかの提案をし、その役割を果たせたらといろいろ模索していきたいと思います。

昨年は各地で様々な災害が発生しました。被災された関係者に心からお見舞い申し上げます。また流行語の一つにもなった危険ドラッグも話題となり、暮れには衆議院議員選挙も行われるなど慌ただしく駆け抜けた一年でした。

結びに本年が皆様にとって最良の年でありますように祈念し、御健勝とご多幸をお祈りし、年頭のあいさつとさせていただきます。

当連合会もホームページを立ち上げて、情報の共有や交流の場として活用し充実を図っていただきたいと考えています。本年は福山市も市政施行一〇〇周年に向か様々なプレイベントが計画されています。

福山市身体障害者福祉協会 会長 村上 友一
福山市視覚障害者福祉協会 会長 根本 敏太郎

NPO法人 福山ろうあ協会 会長 金尾 千三

松永地区身体障害者福祉協会 会長 小川 愛二

芦田町身体障害者福祉協会 会長 甲斐 賛
加茂町身体障害者福祉協会 会長 鎌刈 拓也

市身連スポーツ振興部主催

第1回 ボウリング大会開催

時 十一月十五日（土）
所 口口ナキヤットボウル

本年度の法人としての事業でス

ポーツ進行部としていくつか計画を立ててきましたが、外部との兼ね合いや、他の事業の活動のため日程を変えたりして、いた部としての行事を、やっと開催することができました。

第一回のボウリング大会を、スポーツの秋のど真ん中の十一月十五日やることに、スポーツ振興部と事務局で会場、日程等検討・交渉し、駅裏から会場への送迎もしてもらえる一文字町のコロナキャットボウルで開催となりました。

計画ではボウリング二ゲームと靴、それにお茶付き弁当で個人負担千円で、足りない経費は市身連が補助する案で募集し、その結果各協会から三四名程の参加者があ

りました。

当日、ゲームにはエントリーしていなかった理事長、事務局長も顔を出され、開会の挨拶をされ、キヤットボウルの記念写真の撮影の後、ゲーム開始となりました。

夏のライオング招待のボウリングには当分出場のなかつた車イス協会や難聴、視覚協会からもボランティアの補助を頼み何人もの参加者があり、それに、生まれて初めてボウリングを体験すると言う人もいて、みんなそれぞれに楽しんだ一日でした。

大半の参加者が年一、二回しかボウリングをやっていない人ばかりですから、ストライクの歓声は少なめでしたが、障害者同士の大會で、少々動きがゆっくりでも

あまり気を使う必要なく楽しめた
こと思います。



大会入賞者

(2ゲームトータル・ハンディ点ナシ)

1位	255点	三宅 吉正
2位	252点	背戸川 博正
3位	237点	駒場 直一
4位	234点	今岡 義男
5位	224点	前岡 正一
(敬称略)		

とびとび賞

10位	佐藤 瑞穂
15位	園生 浩治
20位	重藤 弘明
25位	野田 繁雄
30位	千葉 平八郎
ブービー 中谷 博太郎	

昨年の熟年川柳秀作一

* 万歩計 半分いじょう

さがしもの
難聴のボランティアの人手助け

してもらいましたが、盲人のガ

イドさんもお願いできたらもつと

スムーズに運営できたかと思われ

る点が反省点かと思います。

* 誕生日 曖昧な合

い合わせ

立ちくらみ

身体障害者相談員研修会受講報告 重藤事務次長

第十六回中・四国ブロック身障相談員研修会

日時 二〇一四年一〇月二二日
場所 山口市 総合保健会館

今年度中・四国身障相談員の研修会は山口県で開催され、中四国各県から一五〇人程の参加者があり、福山市相談協からは神辺の田上・園生両相談員、駅家の石黒相談員それに事務局の重藤相談員の四名が参加してきましたが、その模様について、重藤事務次長に詳しく報告を書いてもらいました。会報で発表のつもりでの報告ですが、全文を掲載すると多ページにわたりますので、割愛して要点と思うことに絞らせてもらいます。

基調講演 障害保健施策の動向について

厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課
障害児・発達障害者支援室 菊池芳久室長補佐

先ず障害者施策の全体像についてや現行の法体制、対策等についての説明があり、今障害者の総数は約七八八万人（人口の6.2%）になり、内身体障害は約三九四万人（ほぼ5割）、知的障害は約七四万人（1割弱）、精神障害は約

- 1 福祉施設から地域生活へ移行

3 2 精神科病院から地域社会へ
4 地域生活支援拠点等の整備
計画としてはこれまで目標とされていた項目がほとんどで、その支援拠点を整備されることが前進かと思えます。今障害者を施設でな

3 2 精神科病院から地域社会へ
4 地域生活支援拠点等の整備
計画としてはこれまで目標とされた項目がほとんどで、その支援拠点を整備されることが前進かと思えます。今障害者を施設でな

当事者講演 人権・福祉へ広げよう思いやりの輪

社会福祉法人 大和福祉会 「周南あけぼの園」

前崎 敏明 施設長

大和福祉会は就労継続支援B型の指定を受けた施設をまとめた会で「大和あけぼの園」（定員六〇人）「周南あけぼの園」（定員四〇人）「光あけぼの園」（定員二〇人）等の知的障害者の就労を支

援する施設を運営されて、帆布で高級バッグを作ったり、衣類を解体してウエスを作ったり、清掃作業等をする事業をして、入所者を育て、また「夢ワーク」では自力で通所できる利用者が毎年一般企業に就職できていることなどの話がありました。

そして相談事業所を併設して、障害者の社会復帰の相談・支援も行っている話が聞けました。
ぐ一般社会に受け入れさせて健常者と一緒に暮らせるようにするための目標ですが、そのための環境整備と、一般と言われる人たちの理解を深める事が一番大切なことはないかと思われます

者と一緒に暮らせるようにするための目標ですが、そのための環境整備と、一般と言われる人たちの理解を深める事が一番大切なことはないかと思われます

平成二十六年度

広島県身体障害者相談員研修会

日時 平成二十六年十一月二十五日
会場 広島市 広島県健康福祉センター

例年県内3ヶ所が広島市で開催されている広島県身体障害者相談員の研修会が、今年も広島市1ヶ所で県内の相談員を集めて開催するとの案内がありました。

福山市身連も相談協として、相談員の資質向上のためや、県身連の活動に協力する意味も含め、できるだけ多数の参加をしようと、呼びかけをし、結果23名ほどの応募者があり、中型バス一台とふれあい号による車イス使用の3名とで参加してきました。

となく健康福祉センター8階の会場に到着することが出来ました。

広島市の会場へ

研修開始・基調講演

当日、市内の参加者を集めて駅裏へと向かうバスが、途中の事故による渋滞に巻き込まれ、駅裏で三十分以上遅れている状態での出発となりましたが、市内を出てから運転手さんのガンバリと、広島についてから予定していた宇品港の山海ステーションでの昼食の時間短縮してどうにか、遅れるこ

者支援課の豊田浩二主幹によつて説明されました。

先ず資料にそつて、施行されて間もない障害者差別解消法について成立・内容・歴史等についての概要を本当に概略説明されて、続いてあいサポート運動について、今後県としても本格的に取り組む予定となつてゐる事についての説明が大まかにあつて、最後は、全国で行われている第4期の福祉計画の広島県としての作成についての大枠の説明があり、「それぞれについて詳しくは帰つて資料をお読み下さい」とのことでした。

*欠席の相談員にも後日、県から資料を送付される予定です。

面接・ロールプレイング

会場の健康福祉センターには県内各地から一五〇人程の相談員が参加して午後一時から先ず広島県相談員協議会の鎌刈会長の挨拶で開会し、続いて恒例の行政説明があり、「障害者施策の最近の動向」を開会し、続いて恒例の行政説明が

この次が今回の研修のメインとも言うべき「面接の技法」と題して安田女子大の新宅博明先生の講義と「実習」がありました。

この講義は相談員が、相談したいと思っている人と直に対面して話し合う状態になつてからの対応

この仕方の基本となることと、相談者が自分の言いたいこと、聞いてもらいたいことを満足するまで話をさせて、まずは気持ちの満足を与える方法を教えてもらう話でした。

そのたまには、話し合いではなく、いかに聞き上手になるかで、初めは口を挟まず、言いたいだけ言つてもり、話がつきそうになつた時、ちょっと聞き返し、相手の言いたいポイントを掴んだら、そこをこちらから反復して口にし、まだ言い足りなさそうだと、少し反論して全てを話した気分にさせることのようです。

このことを2人1組になつて実践させて、参加者はいつもの話を聞く研修ではなく、自分たちがロールプレイングさせられる研修でしたので、昼食後すぐの時間帯でしたが、眠たかったとも言っておられませんでした。

最初に「傾聴」と言う言葉を出され、これは腹の中のものを全て話されるまで聞くことに専念し、アドバイスや対応は、その後にやることだそです。

市身連 市福祉部長と面談

福山市へ要望書の提出

一月十九日 部長室にて

例年になっている我々障害者団体の活動に対する市の施策について当事者としての要望をまとめ、実際の活動での困り事や、活動に対する援助について対応してもらうため、障害者団体の代表として要望書を作り、福祉行政の窓口である福祉事務所長と障害課長に面会を求め、今年度当面の問題点6項目の要望を提出して、これに答えていただくよう面談してきました。

今回部屋の都合で、幹部5名に絞って面会する事になり、先ず連合会の事務所として人権センターの一室を使わせていただきました。

これまで毎年の如く、陳情のかたちで市幹部の方々と面談してもらったり、福祉事務所担当課長に要望したりしてきておりますが、その成果はなかなか厳しく、要望

であろうと、障害は視覚、聴覚、身体と別々の悩みがありますが、出来るだけ要望を絞る様にして、我々としては、以前はあった行政サービスが担当者が変わる度に引き継ぎがされず消えて行き、それを障害者の自立と言う言葉で片付けられて、福祉大会等に参加するたびに近隣市町に比べても福山はなんでもそんなに福祉に冷たいのかと言われている現実を訴えました。

今回の要望事項要点

- 1、NPO法人となつた市身連に新たに専従職員を置くほどの委託事業を考えもらいたい。
- 2、県、中四国、全国福祉大会などに行政職員の同席を願う。(検討しますとの返答)

- 3、相談員協議会の事務について担当者を決め、協力を願う。
4、障がい者相談員研修の助成を。中四国、全国研修会に参加費助成がここ何年か立ち消えでありますに戻していただきたい。
- 5、障がい者団体活動のために必要なリフト付きバスを市内バス会社等に助成して整備を願う。
6、福祉大会(全国、中四国、広島県)参加の際、手話要約筆記、ガイドヘルパーの派遣を願う。

福山市身連 一月 連絡会

福山市身連 一月 連絡会
事務所において開催しました。

定例の連絡会を十一月は二十日

事務所において開催しました。

今月の議題として先ず二十五日

に広島市である相談員研修参加の

確認から始め、予定した中型バス

での二十名とふれあい号での三名

の参加者数や、行程、費用につい

てそのまま、決定と確認されました。

事務局で急な対応のいる事案と

会場の予約をとっていた忘年会が

急遽総選挙が十四日に投票日となっ

たため、対外的な面を考えて変更

すべきとの結論になり、二十日に

会場が取れるか問い合わせ、取る

て終了しました。

また、先日県身連より申し出のあった障害者対象のパソコン教室を福山地区で開催する件についていいことなので、パソコンのソフトの新旧、日程を2日づつで講習できるか等、具体的な確認を県身連ととつて実施の方向で検討となりました。ほかに一、二の話がありましたが、

第2回 びんごアマチュア音楽フェス 音の音 2014.11.23~24 東部市民センター

昨年から始まつたびんご地域の和・洋楽、バトントワリング、チアリーダーなどの音楽関連のアマチュア愛好家たちのフェスティバルが、今年第2回の発表会を十一月の二十三～二十四日の二日間にわたって開催されました。初日の二十三日は午後の三時から先ずヤヨイバトンスクールのバントンワリングから始まり、幼い子達も日頃練習している成果を精一杯発表する場であつたり、八〇歳を超える視覚障害者の方のしつかり練れた大正琴の演奏とか、それぞれの人達が日頃楽しんでいる趣味を発表できる場となっていました。

二十三日は十二組の出演で、翌二十四日は終日二十三組もの出演者がエントリーしてお

り、三原から東寄りの県東部の音楽好きのアマチュアがグループになりバンドを組んだりするなど、若い時から現在の、おじさん・おばさんバンドになるまで本当に音楽好きで長年続けている、楽しみで仕方ないと言う思いが伝わってくる催しでした。

音楽に体の障害はもちろん何の垣根もなしと、市身連会員の人も参加し、根本氏はハーモニカの演奏、車イス協会の坪山くんは、高校時代を思い出してトランペットの演奏でそれぞれソロで出演しました。

この催しはすでに来年の市政〇〇周年のイベントの行事参考が決まっているそうです。

編集委員会より

連合会活動に「」協力を私達福山市身体障害者団体連合会はNPO法人として認可され、現在会員の会費と市の補助で、厳しい運営を余儀なくしております。会員会費のほかに、賛助会員制度を設け広く「」入会を案内して、「」協力をお願いしております。(団体は何でもかういいです)

個人賛助 年会費 500円 団体年一回 1000円

「」協力は連合会加入の各協会が、事務局まで「」連絡をお願いします。

NPO法人 福山市身体障害者団体連合会
事務所 福山市佐波町一六一三 福山人権交流センター内
電話 084・961・4733

ホームページ開設へ

年度初めに義倉に助成を申請して認められ、開設に向け準備をしていましたが、広報の内容や、プロバイザーの選定、開設料金のことなどで何回か事務局・広報部で検討していましたが、下準備が出来た頃に、OCNは新規の開設は受け付けなくなり、改めてそこから決め直し、今、仮に

開設した状態にして、会員には視覚障害者の人もいますので、音声読み上げのできるかどうかを検証中です。

理事長も折に触れホームページについて触れられており早急に開設して、義倉にも報告できる状態は出来ましたのでまもなく会員や、一般の方々にも見てももらえる事になると思います。

忘年会の報告と思っていましたが急遽衆議員の総選挙が14日投票と決まったため、NPO法人の研修と合わせて計画されていた忘年会は1週間ずれて、発行に間に合わないと思い、次号で報告する事にしました。ちょっと間が空いてどうかと思いますけど・・
16号は新年になつてお届けしますので会員の皆様、明けましておめでとうございます。今年も皆様お元気でご活躍の一年でありますようにお祈り申し上げます。

(M)